

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 熊本県熊本市 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	熊本市立北部東小学校 3年生4クラス 120名 4年生3クラス98名 5年生3クラス 106名 6年生3クラス104名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習・道徳 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	ハンティキャップを乗り越え、アスリートとしての最高のパフォーマンスに多くの感動や勇気をもらう。また、日本人の心である「相手を思いやる感謝の気持ち」を学ぶこと。
5 取組内容	パラリンピックゴールボールの金メダリスト、浦田理恵さんを迎える。自身は20歳頃まで眼は見えていて、教師になる夢を追いかけていた。それから目が見えなくなる事の恐怖、その事を周りに気づかれることの恐怖。そして、打ち明けた時、自分が1人ではなかった事の嬉しさと安堵。それからゴールボールの出会いと辛い練習。そして金メダル。と分かりやすく、そして明るくはなしをしてくださいました。 また、目が見えない人がどうやってゴールボールのスポーツをするかを、子どもが1人体験してもらい、説明してくれました。浦田さんが強く思った事を、いくつか教えてくださいました。 「絶対にあきらめないこと」「笑顔で返事、笑顔で挨拶」など子ども達にとても分かりやすくお話ししてくださいました。



	<p>お話しの後、浦田さんに感想や応援のメッセージを書きました。</p> <p>教室ではハンディキャップを持つ人でもできることがあり、たくさんの人に支えられてがんばっていることやそのことに感謝する大事さを学習しました。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 運動が苦手な児童が、お話しを聞いて(浦田さんも運動が苦手だったが、そんな私でも金メダルが取れたという話)、私も苦手だけがんばりたいという感想を書いていた。 何にでも挑戦することの大しさを教えてもらったという感想。 もっとパラリンピックについて知りたい、応援したいという感想
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	
8 主な課題等	目が不自由な人が来られる時は、スリッパで校内を歩いてもらうのが難しいと感じた。(介助する方もいらっしゃったが)事前に歩きやすい履物を用意しておくといいと反省した。
9 来年度以降の実施予定	今までと同じように来られるアスリートの偉業やそれまでの努力、大事に思っていらっしゃることなどを聞き、事後の授業で活かしていきたい。